ヤ人」の殺害を指示している（Browning, 450 f.）。

ユダヤ人の女性ととくに子供まで殺害するということは単なる個人的な反ユダヤ主義感情からはなかなかとりにくい行動ではないだろうか。そこには上からの命令というようなものがあったと考えるのが自然である。実際のところを言えば、この時期には後述するようにユダヤ人絶滅命令の存在を前提にしなければ、理解できないようなさまざまな行為が起きているのであって、それらの事実からすると、この時期に最初のユダヤ人絶滅命令がなされたように考えられる。それはどのようなことだったのだろうか。

(3) ソ連ユダヤ人の絶滅

私は一九九七年に出版した『ナチズムとユダヤ人絶滅政策』ではユダヤ人絶滅政策は、一九四一年七～八月に決定され開始されたと書いた。現在でも、大局的に見て、この考えは正しいと考えている。しかし、その時はこの当時のユダヤ人絶滅政策がなおソ連ユダヤ人に限定されたものだったということを知らなかった。そういう研究は存在しなかったのである。後述するように、現在ではこの当時の絶滅命令はソ連ユダヤ人に限定されたものであることが明らかにされている。ソ連ユダヤ人の絶滅から出発したナチズムのユダヤ人絶滅政策は、一九四一年一二月に全ヨーロッパのユダヤ人絶滅へと拡大されるのである。この第二段階の絶滅命令はやはり画期的なものである。それ故、私は現在では、ユダヤ人絶滅命令は一九四一年七～八月と一九四一年一二月の二段階にわたって出されたものであると考えている。最初の七～八月の命令はヒムラー管轄下のソ連占領地のソ連ユダヤ人だけを対象としたものであり、第二の一二月の命令は全ヨーロッパのドイツ占領地のユダヤ人を対象としたものである。この第二段階の命令は後述するように、明らかに敗戦の予感に伴ったものであった。

ところで、第一段階の七月末の絶滅命令であるが、これにもっとも重要な影響を持ったのは、戦時中の食糧問

題であると考えられる。飽食の時代に生きている現代の人たちにとっては、食糧問題がいかに重要な問題であるか、とくに戦時中においてそれがどれだけ決定的な問題であったかということはなかなか理解しにくい問題であるかもしれない。しかし、戦時の食糧問題は第一次大戦末期のドイツ革命を引き合いに出すまでもなく、場合によっては戦争の帰趨を左右するほど重要な問題なのである。実を言えば、八月以降、ユダヤ人の女性と子供がもっぱら殺害されるようになったのは、これらが食べるだけで役に立たない存在だと考えられたからなのである。

ヒトラーは第一次大戦末期にドイツに反戦ストライキやドイツ革命が起こったのは、食糧不足に最大の原因があったと考えていたから、戦時の食糧供給を重視しており、そのため、ドイツの一般民衆は戦争末期に至るまでは一定の食糧不足はあったものの、さほどの飢餓を感ぜずに済んだ。しかし、戦時中食糧の絶対量が不足する中で、ドイツ国民にある程度の食料供給を確保するということは必然的に弱い部分にしわ寄せをもたらすことを意味する。それがユダヤ人でありとくにその女子供であった。

先に見たように、独ソ戦中におけるドイツ軍の食糧政策の最大の犠牲になったのはソ連軍捕虜であった。ソ連軍捕虜は軍の強制労働に投入された部分を除いて、食糧供給の最下位に置かれ、餓死するにまかされた。ソ連捕虜の犠牲者総数は二五三万人と言われているが、これはユダヤ人の犠牲者総数五〇〇～六〇〇万人のほぼ半数にあたる巨大な数である。この一事を見ても、戦時における食料問題がいかに重大な問題であるか理解できると思う。

一九四一年一月付のウーチ・ゲットー再編に関する会計検査院の調査書が残っているが、それによれば、ゲットー・ユダヤ人の食費は監獄囚人の半分以下だったのである。ウーチ・ゲットーのユダヤ人評議会議長ルムコフスキーはすでに一九四〇年九月に「ゲットーに供給される食糧の代金を調達することはもはや不可能である」と報告していた。食糧不足に拍車をかけたのが、栄養不足の結果でもある一九四一年夏からの疫病、とくにチフス

MINERVA
西洋史ライブラリー
118

ヒトラーと第二次世界大戦

KURIHARA Masaru
栗原 優
[著]

知性のヒトラーと激情のヒトラー

それぞれが、いかに軍事力の形成と爆発にかかわってきたか。
第二次世界大戦を構造的に解明する。

ミネルヴァ書房

ISBN978-4-623-09484-4
C3322 ¥10000E

9784623094844

1923322100007

定価(本体10,000円+税)

はじめに
第一部　ヒトラーと第二次世界大戦の勃発
第一章　ヒトラーの対外政策思想
第二章　ドイツ再軍備と英独同盟構想の挫
第三章　ミュンヘンへの道
第四章　第二次世界大戦の勃発
第二部　ヒトラーと第二次世界大戦の展開
第一章　独ポ戦をめぐって
第二章　独仏戦をめぐって
第三章　独英戦か独ソ戦か
第四章　独ソ戦の展開
第三部　世界大戦の拡大とヒトラーの転落
第一章　「枢軸」の凋落
第二章　シュペーアの「奇跡」
第三章　ホロコースト
第四章　ドイツ第三帝国の最期
おわりに
附　章　研究史と主要文献について
文献目録
あとがき
人名索引